



① 特許取得商品「ハグレス」。環境への配慮の高まりにつれ販路も拡大している。

マッチングの発想で、ユニークな製品を続々と開発

今回申請した経営革新の内容は、まず第一に、商品の値段シールや管理ラベルをはじめステッカーやネームプレートなど、多種多様なシール・ラベル印刷において使われるタック紙を自社で生産するために糊付機（コーター）を導入する事。第二は印刷物のスピードアップやコストダウンを図るため、最新鋭のデジタル・ラベル転写印刷機を導入するというものです。またこの業務にともない、工場内に新たにクリーンルームを増設する予定です。昨年9月には経営革新計画書の承認を受けており、現在は本格稼働に向けて導入機械の見積りや工場の着工へ向けた準備を進めています。

革新に取り組むことにした理由は、昭和55年の創業以来、当社では一貫してラベルやシール印刷を手掛けてきました。平成2年には業務拡大にともなって現地に新工場を建設、多様化する顧客のニーズに対応した業務を展開してきました。しかしここ近年は他産業と同様に私たちの業界でも中国への業務流出が顕著になってきています。当社でも一昨年の暮れ頃に得意先の大手スーパーからラベル事業を中国へ移行したいとの申し出を受けるといった事などがあり、価格競争によって利益確保が難しい状況になってきていました。この厳しい情勢に打ち勝つためには、他

社との差別化を図れる何か新しい製品を開発していかなければなりません。今回経営革新を申請したのも、自分自身に目標を定め、新しい事業にチャレンジできる方向性をもっていこうとの思いからだったのです。

その方策のひとつがタック紙の自社生産なのです。

印刷業というのは、その製造過程において様々な廃棄物が発生します。印刷後に切り取る紙ゴミをはじめ、ロール紙の芯棒やインクの缶。また輸送に使われるパレットも燃えるゴミとして処分するしかないのが現状です。ゴミの削減



② 渓流釣りが趣味という佐々木社長。「釣りに行くたび自然の荒廃を目の当たりにし、環境保全に対する意識が高まりました。不法投棄やゴミ廃棄のモラルが向上しないのは、自治体や業者によって取り決めが違うから。全国統一のゴミ廃棄マニュアルを作れば、市民も『捨てる』という事に安心を持つようになるはず」。ICタグ付きゴミ処理シールの実現に熱意を燃やす。



③ 印刷ロットが大きくなればなるほど常に一定のクオリティを保つための配慮が必要になる。高度な機械を使用しているため、人によるきめ細かなチェックは欠かせない。



④ 受注の内訳は食品70%、工業30%。食品関係が圧倒的シェアを占めている。ここ最近では管理ラベルなどに使用されるPOSシステム関連の仕事も増えているという。小ロット・即納というニーズに応えるべく体制も強化中だ。

は社会的な課題ですし、仕事の上においてはコストダウンに繋がるというメリットがあります。当社では機械メーカーと相談し、余分な紙ゴミを最初から出さないよう工夫するなど、以前から様々な取り組みを行ってきました。その中から、当社独自の技術「ハグレス」は生まれたともいえます。これはタック紙をメモ帳状に束ねたりテープのように巻いて使うようにして台紙をなくし、資源の削減や廃棄コストの低減を実現した製品で、98年には製造特許を取得して商標登録を行いました。以来、大量のシールやラベルを扱う運輸・流通業界はじめ全国の自治体などからも数多くの注文が舞い込むようになりました。現在はタック紙メーカーから糊付の原紙を購入し、自社で台紙をはがして加工しています。残った台紙もペレット状にして火力発電用の固形燃料に再利用されているのですが、最初から自社で台紙のない紙に糊付を行えば原紙の価格を現在からさらに60パーセントくらいに抑えることがで

き、より一層他社との差別化を図ることができるようになります。

他にも様々な商品を開発しているとの事です。

たとえば金融機関で使われている「S印鑑票」は、特殊印刷のセキュリティーシールを副印鑑票の上に貼り、印鑑の偽造や模造を防止する製品です。これを使えば高性能の光学機器でスキャンしても印影を正確に読み取ることは不可能です。シールをはがすと副印鑑票に「開封済」の文字が転写されてしまう仕組みになっているのです。そもそも地元信用金庫からの依頼で開発したのですが問い合わせも多く、他の金融機関でも採用されるようになってきています。また2年前から研究に取り組んで、昨年商標登録もした「菜果ラベル」という製品もあります。これは果物や野菜など食品に直接貼るという用途から、口に入れても安全性の高いゴム系材料を主体とした粘着剤を利用し

たラベルシール。トレーサビリティ推進の時代において、当社としても消費者にきちんと説明できる製品を作りたいとの思いから開発しました。

このような開発のヒントはどこから得るのですか。

私自身、あれこれ考えるのが好きだという事もありますが、東京の印刷会社に勤めていた時にブレンストーミングの法則について6か月ほど研修したのが今に生きています。研修では「湯呑み」の使い方を30通り考えるなど、様々な課題が出されました。その過程で物事を多角的に見る力が養われたと思います。そういう思考力を身に付けられたことで、自然と問題の背後にある原因をつきとめられるようになり、解決のために色々な要素やアイデアを結び付ける「マッチング」という発想方法を修得できました。現在、研究に取り組んでいるICタグを用いたゴミ処理シールも、いわばこのマッチングを利用したものといえると思います。

ICタグを用いたゴミ処理シールとは?

ICチップを仕込んだタック紙をゴミ袋に貼ることで、誰が・いつ・どこで出したものかという「ゴミの履歴」を明らかにしようというシステムです。ゴミ処理シールは各自治体ごとにあいますが偽造も多く、廃棄のモラルも徹底していません。ICチップでゴミの履歴を把握できるようになれば行政や自治体もゴミの現状をデータ化する事ができ、メーカーへ働きかけてゴミの小量化を推進することだって可能になるでしょう。なにより実現したいのは、ICチップを使って行政や業者によって違うゴミ処理を全国一律で規格化すること。明確な廃棄のマニュアルを作れば、一般市民のモラルや関心も今以上に高まっていくと思います。現在製造特許を申請中ですが、普及のためにも今後は行政などへの説明会をどんどん行っていくつもりです。ICチップはバーコードやQRコードに続く新しい認識システムとして今後は様々な産業で利用されていくといわれていますから、まずは身

近なシールやラベルをICタグ化したいというのが、当社の目標なのです。

経営革新を成功させる秘訣は。

多くの会社が厳しい経営状況に置かれている今こそ、逆にチャンスだと考える姿勢です。当社では業界に先駆けて新しいものを作るため、毎年最新の印刷機を導入してきました。もちろん勇気がいりますし失敗する事もありますが、新しい製品を作り続けられれば企業の付加価値を上げる事ができ、結果的に利益も拡大していくでしょう。そのため大事な事は、まず常にアイデアを生み出していく努力、そして同時に外部とのマッチングを図っていく姿勢。当社の「ハグレス」や「SS印鑑票」もそうですし、ICタグ付きのゴミ処理シールも行政はじめ他業種との交流や連携を進めていく過程から発想できた新事業といえます。企業にとって、マッチングの意義はとて大きいといえるでしょうね。



株式会社 佐々木印刷

所在地 北上市口内町堰根91-4
電話 0197-69-2111
代表者 佐々木信雄
創業 昭和55年
従業員 26名(内パート従業員10名)
業種 ラベル・シール印刷

沿革

昭和55年 4月 12日創立
昭和55年 7月 佐々木印刷有限会社設立
昭和58年 3月 資本金を増資
昭和61年 10月 事業拡張のため北上市上野町の本工場を増築
平成 2年 7月 本社工場を北上市口内町堰根地内に新築移転。商号を株式会社佐々木印刷に変更



5 台紙(はくり紙)をなくした独自商品「ハグレス」は、ゴミの削減はもちろん台紙をはがす手間を省いた事で作業効率もアップすると好評。表面には鉛筆やマジックなどで書き込みもできるのが特徴。

6 工場の設備はロタリ印刷機20台、平圧式印刷機2台。ラベル・シール印刷のメーカーとして関東方面を中心に販売先を全国に持つ。今年は増加するタグフォムラベルやレザプリンタラベルなどの受注に対応するため、デジタルラベル転写印刷機での生産も開始される。

7 ラベル・シール印刷は使用用途が拡大している分野。同社では印刷のほかメーカーと協力しながら新材料や粘着剤の開発などにも携わっている。

